

# SCI Agritech @ アフリカ発 スタートアップ編 NEWSLETTER

Vol.10

2022年 6月号

## 農業機械のプラットフォームサービス企業

## Hello Tractorへの訪問&インタビュー

農業機械と農家の賃耕依頼をマッチングさせるプラットフォームを提供するスタートアップ企業（Hello Tractorケニア事務所）を訪問し、プラットフォームを使ったシェアリングビジネスや事業展開などについてヒアリングを行いました。

Hello Tractorは、Uberタクシーの農業機械版と例えられるアイデアに富んだスタートアップ。アフリカの農業機械事情に変革をもたらすゲームチェンジャーと期待されています。

インタビューをしたFolu氏は、アメリカ育ちのナイジェリア人。新しいアイデアを試行錯誤しながらカタチにしていってお話しをうかがえ、アフリカのスタートアップ動向を知る良い機会となりました。今回は、そのヒアリングの内容を一部ご紹介します。

### インタビュー内容

#### SCI どのようなビジネスモデルなの？



Foluさん

アプリ(Android)を使って、トラクタのオーナーとトラクタが必要な農家をつなぐプラットフォームビジネス。農家が作業日をリクエストすると、空きのあるトラクタのオーナーに情報が届き賃耕サービスを受けられる仕組み。

トラクタのオーナーには、GPSとGlobal SIMカードが内蔵された装置を取り付けてもらう。スマホで稼働状況が確認ができる。

#### SCI 提供しているサービスは？



Foluさん

一つ目は、トラクタのオーナー向け。アフリカでは、トラクタのオーナーがオペレーターを雇って賃耕ビジネスを行うことが多い。そのため、オーナーはトラクタがリクエスト通りに動いているかを常に監視したい。オーナーは、上記の装置を通じてトラクタの位置、作業面積、稼働時間、燃料状況などをアプリから確認できる。



二つ目は、ユーザー(農家)サイド向け。農家は耕起や収穫作業を依頼したいとき、オペレーター付きで農業機械を呼べる。そのため、農家は高額な農業機械を所有する必要がない。また近年は、農作業を依頼する労務者の単価が高くなってきている。このサービスを使うことで、繁忙期の農作業を安価かつ短時間で終わらせる。



### 基本情報

農業機械オーナーと農家の賃耕需要をマッチングするプラットフォームサービス企業

#### 会社の概要

- 2016年にナイジェリアで設立。ケニア、ウガンダでも活動中。
- アジアはタイ、バングラデシュ、パキスタン、インドなどへ展開。近々に日本市場への進出も検討中。
- 2021年、FORTUNEにおいて世界を変える企業の一つに選出。
- 2022年4月28日、Heifer InternationalがPAYGサービスに関して約1億円の投資を発表。

#### SCI 顧客となる農家を探す工夫は？



Foluさん

デジタル技術に農家は不慣れなので、農家がスマホでトラクタを呼ぶことは難しい。そのため、農家の作業要望を集める「Booking Agent」と呼ぶ人材を各地で育成している。各Agentは、100~200名の農家ネットワークを持つ。ケニアでは約600名、ナイジェリアでは約3,000名のAgentがいる。

#### SCI Hello Tractorの強みは？



Foluさん

テクノロジーが支える最新のプラットフォーム技術。そして、トラクタオーナー向けのPAYG(Pay As You Go)方式の返済システムなどである。(PAY G:1回当たりの返済を少額にして、長期間にわたってモバイル決済(m-pesa)で返済する方法。アフリカ各国で活用されはじめた長期少額返済手法。)

#### SCI 今後の事業展開は？



Foluさん

今までは、農業機械オーナーと農家を結ぶプラットフォームビジネスだった。しかし、今回の投資受託を得てHello Tractor自体がトラクタを調達し、それをトラクタオーナーになりたい起業家に提供・販売する事業戦略を新たに描いた。現在、起業家の数はナイジェリア8名、ケニア13名、ウガンダ1名である。

また、圃場の位置情報のデータベース化を進めている。農業は地域との信頼に基づく生産活動と捉えており、Agentが地元のコミュニティから信頼されていることが大切。マーケット拡大に向けて、データベース化の活動と平行して地元出身のAgentを育成・強化していく。

インタビュー協力：Hello Tractor  
<https://hellotractor.com/>